

## 朗読聴取が児童に及ぼす影響

彦坂千穂<sup>1</sup>・栗山和広<sup>2</sup>(<sup>1</sup>愛知教育大学大学院教育学研究科・<sup>2</sup>愛知教育大学)

【目的】聴覚を用いた朗読聴取は、児童の本に対する興味を育て自発的な読書態度を育てる有効な方法であると考えられる。藪中（2005）は、小学校6年生を対象に朗読聴取を行い、朗読聴取態度の促進と読書量の増大を明らかにしている。本研究では不読者が増えてくる小学5年生と2年生を対象に、音楽を提示しないで、聴覚刺激だけを用いた朗読聴取を行い、朗読聴取が児童の朗読聴取態度や読書量にどのような影響を及ぼすかについて検討した。また、それらは児童の年齢により異なるのかについても検討した。

【方法】(1) 対象者：A県内の公立小学校2校①1週間に2回朗読を聴く群（朗読群）（2年生：58名、5年生：78名）②朗読を聴かない群（朗読なし群）（2年生：39名、5年生：54名）(2) 朗読材料：藪中（2005）と同様に読み聞かせに適した図書一覧（蔵元、1997など）の中から2年生、5年生それぞれ30作品ずつ選定し、実験者が朗読したものをCDに録音するという要領で作成した。背景音楽は使用しない。(3) 質問紙：2年生用・5年生用の2パターンを作成した。①フェイスシート②朗読聴取態度尺度（藪中、2005）19項目③読書量：調査時期直前1ヶ月間の読書冊数と1日あたりの読書時間(4) 手続き：朗読聴取を朗読群にのみ、2011年9月～12月の約4ヶ月間週2回継続した。全30回。調査時期は、1回目：朗読聴取開始前（2011年9月）、2回目：約2ヶ月後（2011年11月）、3回目：約4ヶ月継続終了後（2011年12月）

【結果と考察】(1) **朗読聴取態度** 5年生：第1回目朗読聴取態度尺度19項目について、因子分析を行ったところ、3因子が抽出された。第1因子を「想像性」、第2因子を「理解」、第3因子を「意欲」と命名した。朗読聴取態度の各下位尺度得点に基づいて対象者を高低2群に分け、高群、低群それぞれについて、群（朗読群、朗読なし群）×測定時期（1回目、2回目、3回目）の2要因分散分析を行った。意欲高群は交互作用が有意であった（ $F(2,136)=4.34, p<.05$ ）。測定時期2回目における群の単純主効果において、朗読群は朗読なし群より有意に高かった（ $F(1,204)=10.173, p<.01$ ）。また、両群とも測定時期の単純主効果が有意であった（朗読群： $F(2,136)=3.33, p<.05$ ;朗読なし群： $F(2,136)=17.13, p<.001$ ）。多重比較の結果、5%水準で、朗読群では1回目>3回目、朗読なし群では1回目>2,3回目であった。意欲低群も交互作用が有意であった（ $F(2,120)=5.05, p<.01$ ）。測定時期3回目における群の単純主効果において、朗読群が朗読なし群より有意に高かった（ $F(1,180)=9.78, p<.01$ ）。また、朗読群の測定時期の単純主効果が有意であった（ $F(2,120)=11.24, p<.001$ ）。多重比較の結果、3回目>1,2回目であった。2年生：5年生と同様に因子分析を行い、2因子が抽出された。第1因子を「想像性」、第2因子を「意欲」と命名した。5年生と同様の2要因分散分析を行ったところ、想像性高群は交互作用が有意であった。測定時期2回目における群の単純主効果において、朗読群は朗読なし群より有意に高かった（ $F(1,144)=9.06, p<.01$ ）。また、朗読なし群の測定時期の単純主効果（ $F(2,96)=6.15, p<.01$ ）が有意であった。多重比較の結果、1回目>2回目であった。(2) **読書量** 5年生：フリードマン検定により、3時期の比較を行った結果、朗読なし群では、読書冊数、読書時間ともに時期の差は有意であった（ $p<.05$ ）。多重比較の結果、読書冊数が2回目>3回目、読書時間が1回目>3回目であった。意欲高低群別では、朗読なし群意欲高群のみ読書冊数、読書時間ともに時期の差が有意であった。多重比較の結果、読書冊数が1,2回目>3回目、読書時間が1回目>3回目であった。2年生：フリードマン検定の結果、読書冊数、読書時間ともに朗読群で時期による有意差が認められた。多重比較の結果、読書冊数が2回目>1回目、読書時間が2,3回目>1回目であった。

以上のことから、朗読聴取は5年生において、意欲低群に対して意欲を高める効果があるが、意欲高群に対しては効果が見られないことが示唆された。ただし、意欲高群において意欲の低下はみられるものの読書量の低下は見られず、朗読群全体でも朗読なし群に見られるような読書量の有意な減少は見られない。このことから、朗読聴取が読書量に及ぼす効果の可能性が伺える。また、2年生については朗読聴取が朗読聴取態度に及ぼす影響は認められなかったが、読書量の増大に効果的であることが示唆された。